



日本学術会議 第26期
記者会見(令和6年11月28日)
資料1-2

第7期科学技術・イノベーション基本計画に 向けての提言

林 和弘

日本学術会議連携会員(第26期)
科学者委員会学術体制分科会委員長
2024年11月28日(木)

日本学術会議科学者委員会学術体制分科会

令和6年7月29日

役 員	氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
	小畑 郁	名古屋大学大学院法学研究科教授	第一部会員
副委員長	中村 征樹	大阪大学全学教育推進機構教授	第一部会員
	馬奈木 俊介	九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座教授	第一部会員
	磯 博康	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長	第二部会員、副会長
	狩野 光伸	岡山大学副理事／副学長／学術研究院ヘルスシステム統合科学学域教授	第二部会員
	佐々木 裕之	九州大学高等研究院特別主幹教授／九州大学名誉教授	第二部会員
	澤 芳樹	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻未来医療学寄附講座特任教授	第二部会員
	中嶋 康博	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
	古屋敷 智之	神戸大学大学院医学研究科教授	第二部会員
	伊藤 公平	学校法人慶應義塾塾長	第三部会員
	岸本 康夫	JFEスチール株式会社スチール研究所研究技監	第三部会員
	三枝 信子	国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長	第三部会員、副会長
	光石 衛	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授	第三部会員、会長
幹 事	杉本 舞	関西大学社会学部社会学科教授	連携会員
委員長	林 和弘	文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長	連携会員

- 第7期科学技術・イノベーション基本計画に、日本学術会議から提言をまとめる分科会
- 第4期－6期基本計画に関して同様に活動
- 若手に注目（委員、若手アカデミー）
- コアメンバー
 - 三枝副会長
 - 中村副委員長
 - 杉本幹事
 - 狩野委員

第6回 (令和6年 7月26日)	- 資料1: 前回議事要旨参照 - 資料2: 提言「第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」(案)
第5回 (令和6年 7月2日)	- 資料1: 前回議事要旨参照 - 資料2: 生成AIに関する提言に向けて - 資料2-1: 意思の表出の申出書(情報学委員会) - 資料3: 国立健康危機管理研究機構におけるRCTの迅速化、RWDの活用に関する提案 - 資料3-1: 国立健康危機管理研究機構 - 資料3-2: 日本医学会連合ービックデータに関する提言 - 資料3-3: 医療DX工程 - 資料3-4: 3文書6情報の概要 - 資料4: 提言案
第4回 (令和6年 5月20日)	- 資料1: マルチモダリティのその先へ 集合的予測符号化と知能の三層モデル(谷口先生) - 資料2: シビックテックとはなにか? -新しい市民社会の構築に向けて (PDF: 3,106KB)
第3回 (令和6年 4月25日)	- 資料1: 日本学術会議若手アカデミー見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」(小野悠先生話題提供資料) - 資料2: 2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題 - 資料3: 見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」 - 参考資料1: 日本産業の再飛躍へ～長期戦略にもとづく産業基盤強化を求める～(概要) - 参考資料2: 日本産業の再飛躍へ(2024年4月16日一般社団法人日本経済団体連合)
第2回 (令和6年 3月29日)	- 資料1: 提言の骨子案 - 資料2: 意思の表出の申出書案
第1回 (令和6年 2月27日)	- 資料1: 第26期科学者委員会学術体制分科会 委員名簿 - 資料2: 第26期科学者委員会学術体制分科会 設置提案書 - 資料3: 意思の表出に向けたスケジュール案 - 参考資料1: 提言「第6期科学技術基本計画に向けての提言」 - 参考資料2: 提言「第5期科学技術基本計画のあり方に関する提言」 - 参考資料3: 提言「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」 - 参考資料4: 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン - 参考資料5: メール審議の実施について

提言の背景

●国内外の社会に影響を与える変化がかつてない速さで進んでいる。

- 国内では人口減少、とりわけ若い世代の人口の大幅な減少と超高齢社会の到来、都市への人口や公共資源の一極集中
- 経済や学術における日本の国際的地位の変化
- 地球規模では気候変動、大規模な感染症の拡大
- 地政学的変化
- 人工知能（AI）を含む情報技術（IT）の急速な発展

✓ 過去の経験からは予想しえなかった影響を伴って生じていることへの対応が必要。（→提言1）

●現代社会の不安とWell-being

- 雇用や経済の格差、情報格差、将来の環境や健康に対して
- 人間が根本的に希求する価値としての一人ひとりの多様な幸せ(well-being)
- 2030年に達成年を迎える持続可能な開発目標（SDGs）達成への努力を求める動きの広がり

✓ 更にその後に世界が取り組むべき課題も模索され始めている。（→提言1）

提言の背景

●学術の意義と支持基盤の在り方

- 学術は自由な発想から今までになかった概念や理論を生み出し、将来の予見や人材育成を通して社会を支えてきた。
- 現代社会においては政府からの公的資金を活動の大きな支えとするため、公的資金の担い手である社会構成員や産業界からの支持を必要とし、その総額や配分方法は学術の発展に大きな影響をもたらす。
- また、現在、国内では学術の将来を担う若年人口が大幅に減少する中、博士課程進学者数の減少や学術の担い手となる人材の不足を背景に、研究力の危機がいよいよ深刻化している。
- このような状況を打開し、学術活動を発展させ、その成果を社会にもたらすには、より多様な人材を学術に惹きつける必要がある。
- ✓近視眼的な対応ではなく、学術と研究に関わる様々な職業の魅力的なキャリアパスの確立を始め、研究人材の活躍を可能とする資金額や配分方法の見直し、さらにはその基盤としての社会から学術への支持の拡大が肝要である。（→提言2,3,4）



提言の背景

●産業的視野からは学術の成果を踏まえた創業への期待が高まる

- その動きは国際的比較の観点からもより活発になることが望まれる。
- 学術の活動に対する外国からの干渉や、互惠性及び許諾のない情報利用が、学術の自由に対する懸念であるだけでなく、国や経済のセキュリティのリスクである、と国際的に捉えられる情勢に至っている。
- いかに研究インテグリティを確保するかは、科学者コミュニティが主体的に考えるべき事柄であり、学術活動における研究インテグリティを学術の自由を保ちつつ国際水準に見合うようにするために、国内でどのように進めていくかについて検討が必要である。
- ✓経済や社会の持続可能性、回復力、包括性など、望ましい性質を持つ将来像の検討と実現が必要である。（→提言1,3）

●このような社会情勢を踏まえて、第7期基本計画への提言を行う。

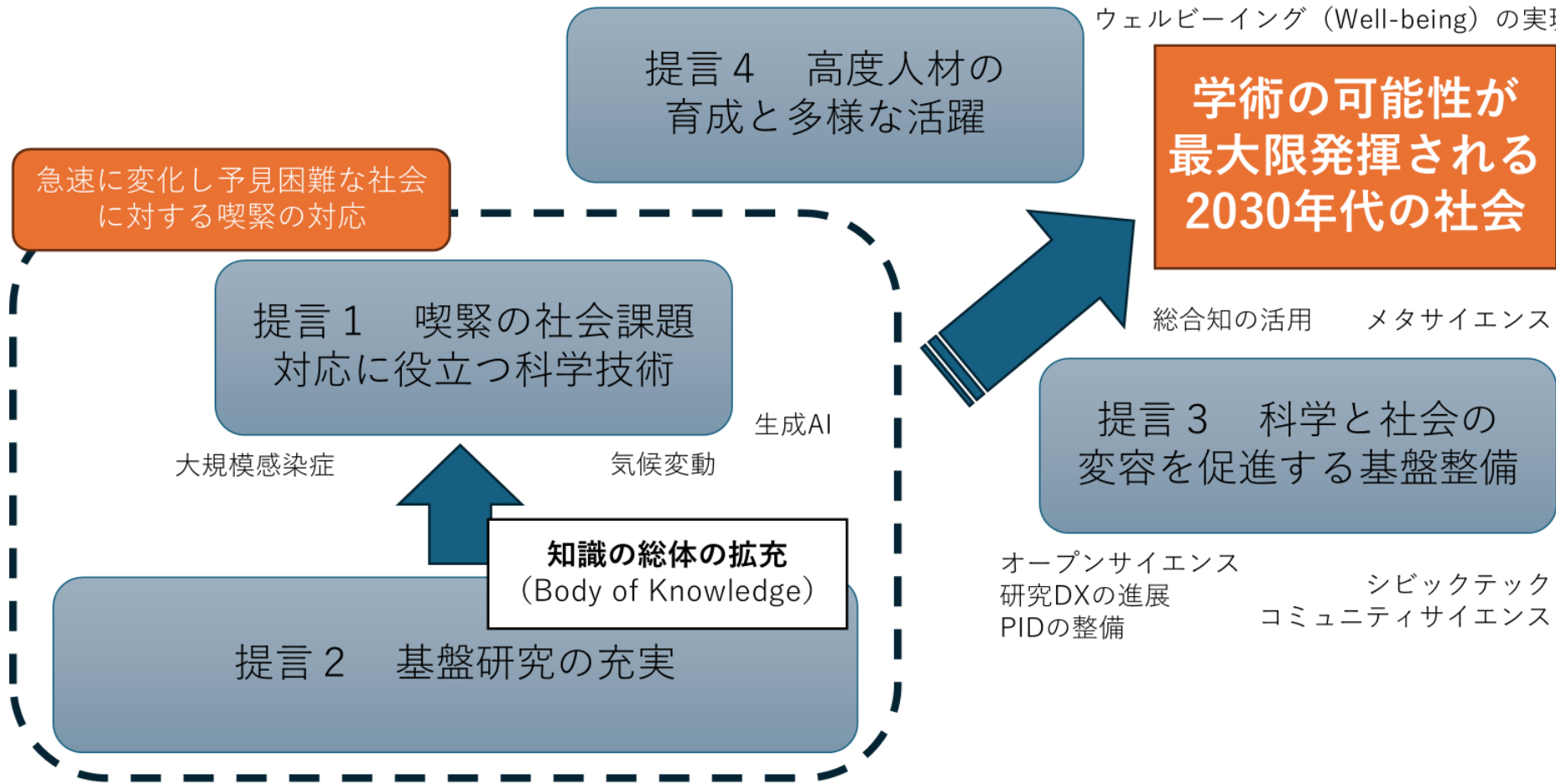
- 本提言は、第25期の日本学術会議の活動によって取りまとめられた知見を中心に、第6期基本計画策定以降の社会情勢の変化を、科学技術・イノベーション政策の観点から捉え直した
- また、新しい視点とトピックを加えて整理した。

第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言 (キーメッセージ)

予見困難な変化に対してレジリエントな社会を構築するためには

- ・ 迅速な意思決定とフレキシブルな研究を可能にする環境
- ・ イノベーションを生み出す基本的な研究力の強化
- ・ そして未知の価値をも包み含む人類の知識の総体 (body of knowledge) が必要





提言

提言 1 大規模感染症や気候変動、超少子高齢社会などの喫緊の課題及び生成AIの発展を含むデータ科学の進展がもたらす社会の急速な変革に対応する包摂的な科学技術・イノベーションを可能にする制度や取組の実現

1. 予見困難な大規模災害や感染症拡大等に対し迅速に調査研究を開始する仕組みと、災害や感染などの有事にも対応し、社会のレジリエンスを担保できる体制の構築
2. 循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行：持続可能で回復力のある社会の構築
3. 生成AIの先も見越したAI研究における競争力の確保と、AIを安心・安全に社会実装できる仕組み作り、及び法制度等における国際的通用性の確保
4. ストラテジックインテリジェンスに基づく政策立案の推進
5. 研究を推進・発展させるための倫理的・法的・社会的課題への対応強化
6. シビックテック、コミュニティサイエンスの活用による産学官民の連携の強化
7. 研究活動のオープン化・国際化が進む中での研究インテグリティの適切な確保

公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろう」

2024.8/1 (木)

13:00～17:30 参加費：無料

社会課題の解決に取り組む研究者概論

研究者になって世界を駆け巡ろう

社会課題の解決に取り組む研究者概論

2024.8/1

13:00～17:30

タイムテーブル

13:00～13:10

開会挨拶

光石 衛先生 日本学術会議会長、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事/東京大学名誉教授
西尾 章治郎先生 大阪大学校長
下田 吉之先生 日本学術会議第三部会長/近畿地区会議、大阪大学工学研究科 環境エネルギー工学専攻教授
司会 関谷 毅先生 日本学術会議第三部幹事、大阪大学産業科学研究所教授

13:10～13:35

基調講演 「未来への展望：世界の課題、我が国の課題」

川合 真紀先生
大学共同利用・共同研究法人、自然科学研究所機構長、科学技術振興機構研究開発戦略センター長
日本学士院会員、東京大学名誉教授、理化学研究所名誉研究員、日本化学会名誉会員、
日本物理学会名誉会員、日本真空表面学会名誉会員、日本工学会アカデミー理事副会長、
Honorary Fellow Royal Society of Chemistry, American Physical Society Fellow



13:35～13:50

講演 1 「量子コンピュータを創ろう 宇宙最強のコンピュータへの挑戦」

藤井 啓祐先生
大阪大学基礎工学研究科 システム創成専攻教授
量子情報・量子生体研究センター 副センター長



13:50～14:05

講演 2 「世界を旅するバックパッカーから都市工学者へ」

小野 悠先生
日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授



14:05～14:15

休憩

14:15～14:30

講演 3 「研究室から世界ビジネスへ：日本初「フュージョンエネルギー」スタートアップの5年間で考える大学×グローバル起業の可能性」

武田 秀太郎先生
日本学術会議連携会員、九州大学都市研究センターフュージョンエネルギー部門、部門長・准教授
京都フュージョニアリング株式会社 共同創業者 兼 Chief Strategist



14:30～14:55

特別講演 「世界の仲間と地球規模の水文学」

沖 大幹先生
日本学術会議第三部幹事、東京大学大学院工学系研究科教授
2024年 ストックホルム水大賞 受賞者



14:55～15:25

パネルディスカッション

【モデレーター】北川 尚美先生 日本学術会議第三部副会長、東京大学大学院工学研究科教授

15:25～15:35

全体シンポジウム終了の挨拶

三枝 信子先生 日本学術会議副会長、国立環境研究所地球システム領域領域長

15:35～15:50

参加者全員での写真撮影

15:50～16:00

休憩（オンライン配信終了）

16:00～17:00

グループディスカッション

一般参加者、講師、会員によるグループディスカッション

17:00～17:30

各グループにて修了証授与、写真撮影、クロージング

問い合わせ先（講演会事務局）：
pe@eco.sanken.osaka-u.ac.jp

申込
右のQRコードからお申し込みください
https://www.sekitani-lab.com/symposium2024/



横浜市次世代育成事業

第13回

計算知能に関する国際会議

IEEE WCCI 2024



人間、AI、自然の 未来を想像する

AIはどうやって急速に進歩したのか。どこまで進歩するのか。AIを得た人類はどのような社会を創っていくのか。

この市民講座ではAIの専門家、未来社会予測の専門家の講演を聴講します。そして人間、AI、自然の未来を想像するワークショップを実施します。

Sanaz MOSTAGHIM 教授 (Otto von Guericke University)

※英語での講演ですが、日本語同時通訳を提供します。

中間 真一 氏 (ヒューマンリソース研究所)

1. AI の今と未来についての講演 (45 分×2 件)
2. 人間、AI、自然の未来を想像するワークショップ (約 1 時間半)

スケジュール

12:40 受付開始
13:00 講演開始
14:55 ワークショップ開始
16:00 各グループの発表
16:25 講評・閉会



開催日/2024年 6 月 30 日(日)

13:00～16:30 (12:40より受付開始)

会場/パシフィコ横浜 会議センター 5 階 511-512

対象/高校生

定員/40 名(応募者多数の場合は抽選)

参加費/無料

公開シンポジウム「研究者になって世界を駆け巡ろう ～ 社会課題の解決に取り組む研究者概論～」

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/367-s-0801.html>

市民公開講座「人間、AI、自然の未来を想像する」

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/340-s-0630.html>

市民とともにつくる学術知

シチズンサイエンス／シビックテックの挑戦



2024
9.7 [土] 13:00～17:00

**京都大学
国際科学イノベーション棟5F
シンポジウムホール** (京都市左京区)

学術知の担い手として、大学や研究機関に所属する研究者だけでなく、地域住民や一般市民が重要な役割を担うようになってきている。市民がデータ収集等の局面で科学研究の一翼を担い、科学研究の進展に貢献する「シチズンサイエンス」や、市民がテクノロジーを活用して社会課題の解決に取り組む「シビックテック」をとりあげ、それらの活動に取り組んでいる研究者や市民とともに、これらの学術知のあり方について考える。

お問合せ先
日本学術会議近畿地区会議事務局
(京都大学研究推進部研究推進課内)
Tel: 075-753-2270 Fax: 075-753-2042
E-mail: scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参加申込方法
参加を希望される方は、9月4日(水)までに下記URLまたはQRコードより事前申込をお願いいたします。
(対面：オンライン参加共通)
<https://forms.gle/At4AKZxjbA3cBt4y6>

主催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
後援：公益財団法人日本学術協力財団

開会挨拶
主催者代表 遠藤 康
(日本学術会議副会長・第二部会長、国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国際医療協力センター(CIC)ヘルムス&ヘルムス研究センター長)
主催者代表 時任 寛博
(京都大学副学長、京都大学副学長兼教育研究推進センター長)

趣旨説明
中村 征樹 (日本学術会議第一部長、大阪大学全学教育推進機構教授)

講演
「シチズンサイエンスによる全国源流域河川水質調査「山の健康診断」」
徳地 直子 (日本学術会議副会長、京都大学フィールド科学教育研究センター教授)
「外来種ナメクジの分布調査と市民」
宇高 寛子 (京都大学大学院理学研究科助教)
「歴史資料の市民参加型翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」」
橋本 雄太 (国立歴史民俗博物館研究部准教授)
「シビックテックを通じたオープンなデジタル地図の活用」
瀬戸 寿一 (駒澤大学文学部地理学科准教授)

パネル討論
上記講演者に加えて、コーディネーター：中村 征樹

全体総括
村山 美穂 (日本学術会議第二部会長、京都大学フィールド科学教育研究センター教授)

組合司会
矢野 穂司 (日本学術会議第一部長、立命館大学文学部教授)

プログラム

13：10～13：15 趣旨説明中村 征樹（日本学術会議第一部長、大阪大学全学教育推進機構教授）

13：15～13：35 講演1「シチズンサイエンスによる全国源流域河川水質調査「山の健康診断」」徳地 直子（日本学術会議連携会員、京都大学フィールド科学教育研究センター教授）

13：35～13：55 講演2「外来種ナメクジの分布調査と市民」宇高 寛子（京都大学大学院理学研究科助教）
13：55～14：15 講演3「歴史資料の市民参加型翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」」橋本 雄太（国立歴史民俗博物館研究部准教授）

14：15～14：30 休憩
14：30～14：50 講演4「シビックテックを通じたオープンなデジタル地図の活用」瀬戸 寿一（駒澤大学文学部地理学科准教授）

14：50～15：10 講演5「シビックテックの現場から：兵庫県豊岡市での取り組み」砂川 洋輝（一般社団法人コード・フォー・ジャパン コンサルタント）

15：10～15：30 講演6「オープンサイエンスがもたらす学術と社会の変容：次期基本計画に向けた視点」林 和弘（日本学術会議連携会員、文部科学省科学技術・学術政策研究所データ解析政策研究室長）

提言

提言 2 喫緊の課題解決に資する研究に加え、基礎的・伝統的な研究分野を含む広範、かつ、多様な研究分野を支援し、知識や技術の継続的な蓄積による研究力強化

1. 研究力強化に資する研究環境改善のための総合的な政策の強化
2. 社会的影響度を考慮し、定量評価偏重を避ける研究評価への移行
3. 学術的・社会的インパクトのある成果を創出するための研究資金配分の検討
4. 人口減少、超高齢社会を踏まえた地域の学術振興
5. 公正な研究活動を一層推進するための基盤整備

第4期科学技術基本計画への
日本学術会議の提言



平成21年（2009年）11月26日
日 本 学 術 会 議
日 本 の 展 望 委 員 会

提 言
第5期科学技術基本計画のあり方に関する提言



平成27年（2015年）2月27日
日 本 学 術 会 議
学術の観点から科学技術基本計画のあり方を考える委員会

提言
第6期科学技術基本計画に向けての提言



令和元年（2019年）10月31日
日 本 学 術 会 議
科学者委員会 学術体制分科会

[1]日本学術会議日本の展望委員会、提言「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」、2009年11月26日

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t85-1.pdf>

[2]日本学術会議学術の観点から科学技術基本計画のあり方を考える委員会、提言「第5期科学技術基本計画のあり方に関する提言」、2015年2月27日

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t209-1.pdf>

[3]日本学術会議科学者委員会学術体制分科会、提言「第6期科学技術基本計画に向けての提言」、2019年10月31日

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t283-1.pdf>

日本学術会議主催学術フォーラム

未来の学術 振興構想

—実現に向けて—

23年度に実施した提言「未来の学術振興戦略」(2023年度版)の議論、意見交換の場として、本フォーラムにおいて提言の進捗状況と、その実現に向けての取り組みについて、関係者から意見を交換する。また、本フォーラムより豊かにしていくためにどのような取り組みが必要であるかを議論し、日本学術会議各団体の専門家及び外部関係者による議論を行う。

令和7年
10月4日(金) 13:00~18:00

【開催場所】 日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)
〒106-8555 東京都港区六本木2-22-34
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、B出口より徒歩1分

参加費 無料

事前参加 申込制
どなたでもご参加いただけます。

申込方法
▶事前申し込みは下記URLまたはQRコードから
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0270.html>
申込締切: 9月27日(金)
日本学術会議講堂での参加は定員になり次第の切り、超過の際はオンライン参加

プログラム 司会進行: 山本 耀子 (日本学術会議第二部長、国立研究開発法人国立自然学博物館研究シニア・部長)

13:00 ~ 13:05	開会挨拶	光石 晃 (日本学術会議委員・第三部長、独立行政法人大学学術政策・学術振興局長、東京大学名誉教授)
13:05 ~ 13:15	未来の学術振興戦略 (2023) について【部会決定議題】	光石 晃 (同前)
13:15 ~ 13:30	【未来の学術振興戦略 (2023) の目録したもの】 【人文・社会科学部会分題】	山崎 典子 (日本学術会議委員、独立行政法人大学学術政策研究振興局長、学術研究員)
13:30 ~ 13:45	ネットワーク社会における多様性と多様性の実現 【生命科学部会分題】	鈴木 基史 (日本学術会議第一部長、京都大学大学院医学研究科教授)
13:45 ~ 14:05	生命科学の新たな展開と創成 【工学・工学部会分題】	石塚 真由美 (日本学術会議委員、北海道大学大学院工学研究科教授)
14:05 ~ 14:35	自然の探求と技術革新による未来社会の基盤形成 【自然科学部会分題】	田辺 真一 (日本学術会議委員、東京大学大学院理学系研究科教授)
14:35 ~ 15:05	分野横断で拓く学術の未来 休 息	岸本 善久雄 (日本学術会議委員、国立工業大学院教授)
15:15 ~ 15:40	日本の学術の現状と未来の学術振興戦略	
15:40 ~ 16:05	未来の学術振興戦略 一研究力の視点から— 日本の学術に求められるこれからの展開 一価値、多様性、文化—	山口 周 (日本学術会議委員) 渡辺 真代子 (日本学術会議委員、日本学術会議 研究政策推進部シニアスタッフ代表)
16:15 ~ 16:40	学術研究振興とグランドビジョンの両面にわたる提議 学術と社会の歩み並進に向けて—学術振興戦略とグランドビジョン実現に向けて—	中村 隆浩 (国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長、元国立大学学術政策研究センター長)
16:40 ~ 17:05	【未来の学術振興戦略】を政策の観点から考える	栗山 豊 (東京大学大学院経済学系教授、研究センター長)
17:05 ~ 17:30	我が国の科学技術・イノベーション政策について	山本 正樹 (内閣府科学技術・イノベーション政策推進事務局 総括官) 竹野田健司 (日本学術会議第三部長、科学政策推進部学術研究推進科政策課長、東京大学工学系研究科マテリアル工学専攻教授)
17:30 ~ 17:50	まとめ、閉会挨拶	

主催: 日本学術会議 企画: 科学者委員会学術研究振興分科会

日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

アクセス・サイトマップ・English

HOME About SCJ 提言・報告 イベント 委員会活動 地域等との連携 国際活動 会員・連携会員 協力学術研究団体

日本学術会議 トップページ > 提言・報告等 > 提言 > 未来の学術振興構想 (2023年版)

未来の学術振興構想 (2023年版)

◇本文 (PDF形式: 8.453KB) [PDF](#)

◇付録

<付録1> 「学術の中長期研究戦略」一覧 (PDF形式: 799KB) [PDF](#)

<付録2> 「学術の中長期研究戦略」概要
グランドビジョン①: 言語・コミュニケーション研究の充実を踏まえた現代社会問題のデータ解析による解決策の提示

No.1 (PDF形式: 487KB) PDF	No.2 (PDF形式: 262KB) PDF	No.3 (PDF形式: 554KB) PDF
---	---	---

グランドビジョン②: 長い時間軸・大きな空間軸・多様な視点からのヒトと社会の科学

No.4 (PDF形式: 574KB) PDF	No.5 (PDF形式: 480KB) PDF	No.6 (PDF形式: 388KB) PDF
No.7 (PDF形式: 661KB) PDF	No.8 (PDF形式: 424KB) PDF	No.9 (PDF形式: 1,004KB) PDF
No.10 (PDF形式: 449KB) PDF	No.11 (PDF形式: 943KB) PDF	No.12 (PDF形式: 715KB) PDF
No.13 (PDF形式: 388KB) PDF	No.14 (PDF形式: 303KB) PDF	No.15 (PDF形式: 611KB) PDF

グランドビジョン③: 日本史学を含めた非西洋史学の再構築と国際協働

No.16 (PDF形式: 436KB) PDF	No.17 (PDF形式: 509KB) PDF	
--	--	--

グランドビジョン④: 地球の生命環境と食料供給を持続させるための学術創生

No.18 (PDF形式: 663KB) PDF	No.19 (PDF形式: 581KB) PDF	No.20 (PDF形式: 604KB) PDF
--	--	--

提言

提言3 公共財としての知識・データの蓄積と開放を促し、データ科学の更なる展開による新しい科学とイノベーションへの対応

1. 論文、研究データを含む知識基盤の整備・強化と活用
2. 永久識別子に関する省庁横断の国家戦略策定による日本の研究の見える化
3. 産学官民などのセクターを問わないデータ流通と活用
4. 将来の科学を見通すメタサイエンスやサイエンスオブサイエンスに関する研究の強化

回答

研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について



令和4年（2022年）12月23日

日本学術会議

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k335.pdf>

開催日

2023
6/26(月)・6/27(火)

開催場所

日本学術会議講堂（オンライン配信あり）
▶東京港区六本木6-7-22-34
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口より徒歩1分

申込方法

事前に下記URLからお申込みください。
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>

第1日

13:30 開会挨拶 栗田公一（日本学術会議会長、東京大学研究・研究開発機構特任教授）
13:35-14:05 森田訓司・田中啓文の対談 森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
14:05-14:35 日本のオープンサイエンス政策～G7科学技術大綱を踏まえて～
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員）

第2日

13:30 開会挨拶 栗田公一（日本学術会議会長、東京大学研究・研究開発機構特任教授）
13:35-14:05 森田訓司・田中啓文の対談 森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
14:05-14:35 日本のオープンサイエンス政策～G7科学技術大綱を踏まえて～
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員）

プログラム

司会：林和弘

第1日
13:30 開会挨拶 栗田公一（日本学術会議会長、東京大学研究・研究開発機構特任教授）
13:35-14:05 森田訓司・田中啓文の対談 森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
14:05-14:35 日本のオープンサイエンス政策～G7科学技術大綱を踏まえて～
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員）
14:35-15:05 オープンサイエンスとデータ駆動型科学の先端事例の紹介
一杉太郎（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:05-15:35 オープンサイエンス推進のための推進の標準化と科学の「ラディカルシフト」
坂田一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:50-16:20 社会科学におけるオープンサイエンス推進するデータ基盤について
上妻貴史（日本学術会議第一部長、神户大学計算科学研究所センター長・経済学研究員）
16:20-16:50 気候変動分野における地球規模観測とモデルの融合、データ利活用について
三枝信子（日本学術会議第三部長、国立環境研究所システム研究員）
16:50-17:00 第1日のまとめ

第2日
9:40-9:50 第2日の導入
〔セッション1〕オープンサイエンスとデータ駆動型科学の先端事例の紹介（森田）
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
9:50-10:20 AI駆動型科学とその学術・社会への影響
高橋博一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
10:20-10:50 航空におけるデジタル化とグリーン 大林茂（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
10:50-11:20 社会科学分野におけるオープンサイエンスの活用：国際機関・人間の安全保障への活用
事例を中心に 長瀬大和（東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
11:20-11:50 G7のコミュニティと社会科学の発展
林和弘（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
〔セッション2〕多様な視点からみたオープンサイエンスとデータ駆動型科学
座長：永井由佳（日本学術会議第三部長、国立環境研究所システム研究員）
13:00-13:30 企業の視点より 藤崎誠（GIGA研創株式会社代表取締役）
13:30-14:00 人文社会の視点より 木部暢子（日本学術会議特任委員、人間文化研究機構）
14:00-14:30 インフラの視点より 山崎一博（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
14:30-15:00 組織・人材の視点より 船守英樹（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:00-15:20 法制度（国際）の視点より 金澤一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:20-15:40 法制度（国内）の視点より 矢野貴浩（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
16:00-17:30 〔セッション3〕科学と社会のデザイン—変わるものと変わらないもの—
パネリスト：木部暢子、三枝信子、生員真一、矢野貴浩、高橋博一、林和弘

参加費

無料

関係先：日本学術会議 学術フォーラム担当

電話 03-3403-6295

開催日

2023年9月1日(金)

開催場所

ハイブリッド開催 一橋大学一橋講堂
（現地会場および YouTube Live 配信）

参加費

無料

申込方法

事前に下記URLからお申込みください。
<https://reg.nii.ac.jp/m/arw2023>

プログラム

司会：林和弘

第1日
13:30 開会挨拶 栗田公一（日本学術会議会長、東京大学研究・研究開発機構特任教授）
13:35-14:05 森田訓司・田中啓文の対談 森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
14:05-14:35 日本のオープンサイエンス政策～G7科学技術大綱を踏まえて～
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員）
14:35-15:05 オープンサイエンスとデータ駆動型科学の先端事例の紹介
一杉太郎（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:05-15:35 オープンサイエンス推進のための推進の標準化と科学の「ラディカルシフト」
坂田一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:50-16:20 社会科学におけるオープンサイエンス推進するデータ基盤について
上妻貴史（日本学術会議第一部長、神户大学計算科学研究所センター長・経済学研究員）
16:20-16:50 気候変動分野における地球規模観測とモデルの融合、データ利活用について
三枝信子（日本学術会議第三部長、国立環境研究所システム研究員）
16:50-17:00 第1日のまとめ

第2日
9:40-9:50 第2日の導入
〔セッション1〕オープンサイエンスとデータ駆動型科学の先端事例の紹介（森田）
森田訓司（日本学術会議会長、オープンサイエンス推進委員、データ利活用推進委員）
9:50-10:20 AI駆動型科学とその学術・社会への影響
高橋博一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
10:20-10:50 航空におけるデジタル化とグリーン 大林茂（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
10:50-11:20 社会科学分野におけるオープンサイエンスの活用：国際機関・人間の安全保障への活用
事例を中心に 長瀬大和（東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
11:20-11:50 G7のコミュニティと社会科学の発展
林和弘（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
〔セッション2〕多様な視点からみたオープンサイエンスとデータ駆動型科学
座長：永井由佳（日本学術会議第三部長、国立環境研究所システム研究員）
13:00-13:30 企業の視点より 藤崎誠（GIGA研創株式会社代表取締役）
13:30-14:00 人文社会の視点より 木部暢子（日本学術会議特任委員、人間文化研究機構）
14:00-14:30 インフラの視点より 山崎一博（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
14:30-15:00 組織・人材の視点より 船守英樹（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:00-15:20 法制度（国際）の視点より 金澤一（東京大学大学院理学系研究科化学系教授、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
15:20-15:40 法制度（国内）の視点より 矢野貴浩（日本学術会議特任委員、東京大学大学院理学系研究科化学系教授）
16:00-17:30 〔セッション3〕科学と社会のデザイン—変わるものと変わらないもの—
パネリスト：木部暢子、三枝信子、生員真一、矢野貴浩、高橋博一、林和弘

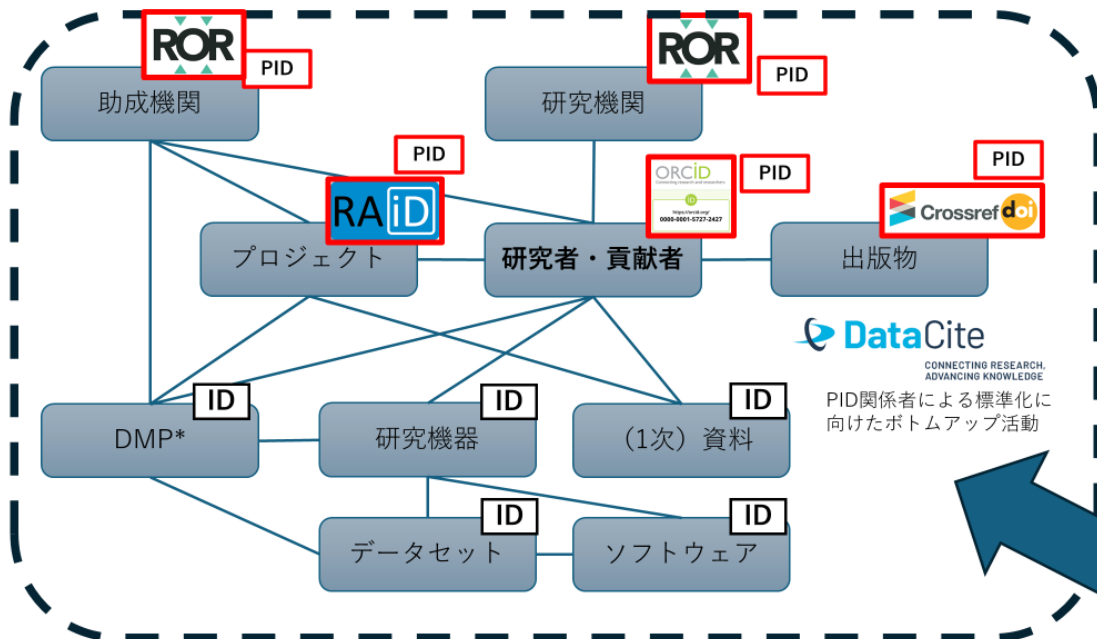
参加費

無料

関係先：日本学術会議 学術フォーラム担当

電話 03-3403-6295

ある研究者がどの研究機関でどのような研究費を活用してどんな成果を得たかがわかる



PID(永久識別子)を活用した研究に関する情報のネットワーク化

- 国際的な文脈における
- 研究貢献の多角的な認識と分析
 - 研究成果の多角的な認識と分析
 - 研究評価への応用
 - 研究公正への応用
 - 研究推進への応用

AI技術の導入による認識と分析の高度化

*DMP: データマネジメントプラン

研究助成を得るときにその研究で得られる研究データについて、その管理・保存、共有、公開に関する計画をまとめたもの

研究活動とその貢献の可視化

提言

提言 4 多様なキャリアをもつ高度人材の育成をあらゆる領域で支援するとともに、そういった人材が様々な場所で専門性を発揮できる仕組みの強化

1. 多様化・深刻化する社会課題に対応できる人材の育成
2. 大学院教育の魅力と優位性の向上による博士人材育成環境の充実
3. 分野の壁を越え国際的リーダーシップを発揮するための流動性の改善

2040 年の科学・学術と社会を見据えて いま取り組むべき 10 の課題

日本学術会議若手アカデミーとは？

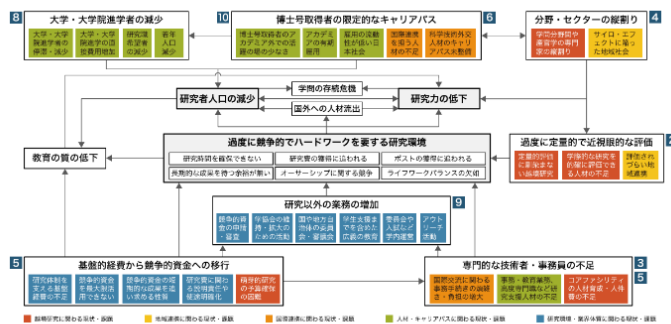
- 分野横断的かつ公的な若手研究者の活動
 - 45歳未満の文・社会科学・自然科学の研究者が50名以上を組織した結集
 - 私たちが目指すもの
 - 最先端のノーバーク創生を科学・学問の立場から今後20年にかけて支えること
 - 私たちのこころまでの活動
 - 人材育成、政策研究支援、施設研究開発、国際連携推進、電気通信、イノベーション促進のための分野横断的
 - 分野横断的かつ公的な若手研究者の組織としてのシンクタンク活動
 - 日本の若手研究者を8000人以上を対象とした大規模アンケートの活動
 - 電気のスーパースターやノーバークアクション・リーダーとしての活動
 - シンゲンティクス（市民科学）の展開
 - Global Young Academy等を通じて世界の若手研究者と交流



2040 年の科学・学術と社会を見据えて

- 近い将来、65歳以上人口が全体の35%に
 ・労働力不足や消費・介護需要の増大、地方の過疎化
 などの問題が顕在化するなどのリスクも存在
 ・漸進的な我が国でのイノベーションの創出が不可欠
 しかし、我が国はイノベーション出を阻む多数
 の構造的要因あり
 ・標準を越えてハイパフォーマンスが起これば10年
 以上かかる
 ・産官学や産官産を越え取り組みがますます重要
 「10の課題」をまとめた
- イノベーション創出のために
 取り組みが必要なら5つの領域
- 日本のイノベーションを創出していくために分野や領域を越えて協力が必要というように！

イノベーション創出を阻む構造的問題



イノベーション創出のためにいま取り組むべき10の課題

- [illegible]

連絡先: 26yaj-kanjidan@googlegroups.com | 第 26 期日本学術会議若手アカデミー幹事団 (小野 悠、横倉 隆男、岩崎 淳、西澤 幸太)

資料5 10の課題に対する改善策

10 の課題に対する改善策、主なステークホルダー、関連する 5 つの領域を整理する。

改善策	主なステークホルダー				特に関連する5領域	該当ページ
	学	産	官	民		
(1) 基盤的・伝統的分野における知識や技術の蓄積	●				越境・地域・国際	2
(2) 越境研究や地域連携に対する評価や支援の拡充						
・多様な知識生産のあり方を踏まえた研究評価方法の確立	●				越境・地域・人材	5,6,7,8,10,12,18
・学際的な研究者やプロジェクトを的確に評価する仕組みや人材	●	●	●		越境・人材	5
・学際や異分野融合を目的とした組織や取り組みへの十分なポストや予算の分配	●				越境・人材	5
・萌芽的な研究を支える小規模な予算の拡充（学内資金など）	●		●		越境・環境	6
(3) 博士号取得者を擁するコアファシリティの拡充	●	●	●		越境・環境	6
(4) セクターを越えた共創プラットフォームの整備						
・アカデミアの研究者と産官民のマッチング・交流機会の創出	●	●	●	●	越境・環境	6
・地域に根差した問題解決に科学的に取り組む専門人材を育成し、地域の行政機関に活用できる体制	●		●		地域・人材	8
・主体的に進路を決定する能力・態度を育成するキャリア教育（インターンシップを希望する高校生やリカレント教育を希望する社会人と、それを受け入れる研究室とをマッチングさせる仕組みの確立など）	●				地域・人材	8
・地域の人的資源等を活用し、学校教育と社会との連携を行うスキームの効率化	●			●	地域・人材	8
・超領域的社会課題を解決する人材の支援（若手研究者の長期有給インターンシップ、企業と大学による優秀な若手研究者の発掘など）	●	●	●		地域・人材	8
・産官学民が地域課題の解決に連携して取り組めるプラットフォームの構築	●	●	●	●	地域・環境	8
・地域連携などににおける行政側からの人的サポートの拡充			●		地域・環境	9

今後の展望

本提言及び提言を取りまとめた第26期科学者委員会学術体制分科会は、第26期日本学術会議が2023年10月に立ち上がった後に検討を始め、2024年2月に第1回分科会を開催した。本提言は、第25期までの日本学術会議の取組によってまとめられた知見を中心に、第6期基本計画以降の社会情勢の変化を踏まえて、科学技術・イノベーション政策の観点から捉え直し、いくつかの新しいトピックや視点を加えて整理したものである。冒頭にも述べたように本提言に通底するメッセージは、「予見困難な変化に対してレジリエントな社会を構築するためには、迅速な意思決定とフレキシブルな研究を可能にする環境、イノベーションを生み出す基本的な研究力の強化、そして未知の価値をも包み含む人類の知識の総体(body of knowledge)が必要」である。

一方、第26期日本学術会議においては、生成AIや気候変動問題等の喫緊の課題を中心に提言等の準備が進められ、本提言において一部それらを予告し連動する形となっている。社会における情報の統合利用や複合利用が加速していることを踏まえ、今後、本提言及び今後の提言等をネットワーク化したパッケージとして見立て、日本学術会議の包括的なメッセージと捉えていただくことを期待する。

知識の総体(body of knowledge)の維持・再構成に向けて

25期

26期

